

論語教室だより

『寺子屋・こども論語塾』世話人会

第 31 号

2013 (平成25) 年9月21日 (土)

論 語

札幌市立北野台中学校 1年 道端 啓介

論語塾に通い始めて、2年半が過ぎました。風邪や両親の事情でお休みが続いた時もありましたが、新田先生がいつも温かく迎えてくれたのでここまで続けられたんだと思います。

論語の中で一番よく出てくる「仁」という言葉ですが、社会の中また家族と暮らす中で、とても大事なことでと実感します。

亡くなった祖父も思いやりが一番大事だと言われていたそうです。僕が生まれる前に亡くなられたので会ったことはないけれど、立派な人だったんだろうなあと思います。

僕は「歳寒くして、然る後に松柏の彫むに後るるを知る。」という言葉が好きです。本当の姿はそう簡単にはわからないものだと思うと、見かけがさえない人でも魅力的に見えてきます。とても面白いです。

ちなみに、母は「人の己を知らざるを患えず。人を知らざるを患う。」と「罪を悪んで人を悪まず。」が好きなんだそうです。孔子先生のように、こう思える人になりたいと言っています。

思いやりという言葉は「愛する」ということだと思います。「愛こそすべて」とは、まさしくその通りです。きっと、自分より相手が大事だと心から思えれば、けんかなんか無くなります。

最近、論語が大好きな父と来る機会が無くなりましたが、論語塾を勧めてくれた祖母に感謝し、父の分まで頑張れたらと思います。

新田先生、これからもどうぞよろしくお願い致します。

※ 10月は、池田 真帆さんをお願いします。

安岡 定子 先生をお招きして

寺子屋・こども論語塾 主宰 新田 修

8月の論語塾は、お盆明けということもあって会場を北大寺から札幌サンプラザホテルに変更して坐禅なしで行いました。また、安岡定子先生をお招きして、2年ぶり2回目の講話を頂きました。

当日の流れは以下の通りです。高島篤世話人会代表の司会で安岡定子先生を紹介した後、先生の講話に入りました。その後、塾長並びに石井雄大君より記念品の贈呈、更には塾生を代表して柴沼玲実さんのお礼の言葉があり、先生にはお座りいただいていつもの通りの塾長による論語の講義に入りました。8月17日は、たまたま塾生の中島千諒君の誕生日のため全員で誕生日を祝う歌を歌って祝福し、「論語教室だより」では街道花さんの論語に寄せる情熱を綴った素晴らしい感想文を朗読してもらい、最後に安岡先生の先唱役で全員が復習の素読を行って閉塾しました。

安岡先生の感性豊かな心温まる有意義な講話の最後に論語・雍也第六の第十三章「子、子夏に謂いて曰わく、女、君子の儒となれ、小人の儒と為る無かれ。」という章句を取り上げ、「学問を学ぶなら、単に物知りの人になるのではなく、君子(立派な人)を志して、心の優しい思いやりを持った人になってほしい」と塾生・保護者に訴えられました。

当日の参加者は、お盆明けの土曜日ということもあってか、48名といつもの月より少なかったにもかかわらず、会場は熱気に包まれ全員が感動に満ちた表情をしていた点が印象的でした。

ある小学生の塾生は、「色々なことばの意味をわかりやすく説明してくれて、とてもよく理解することができました」と。また、その保護者は「安岡先生は、歯切れよい話口でとても聴きやすかったです。

また親が普段、子供のことで悩んだり考えていることを理解しているからなのでしょう。先生が話されたことに共鳴する点が多々あって大変ためになりました」と話してくれました。

翌朝の北海道新聞に早々と写真入りの記事が載り、今回の催しに花を添えてくれました。